青森県総合学校教育センター　教科等教育長期研究講座報告[2010.3]
Ｇ１－０２

小学校　国語

説明的文章の学習において，「読む力」を「書く力」として活用できる子どもを育成する指導法の研究
－読みの手だての振り返りと取材・構成シートの活用を通して－

平内町立山口小学校　　教諭　　野　沢　　寿　恵

要　　旨

本研究は，説明的文章の学習において，「読む力」を「書く力」として活用できる子どもを育成することを目的としたものである。読みの手だての有用性を実感させる言語活動を設定し，それを振り返らせる活動を指導過程に設定することと，ワークシートを工夫することにより，表現の細部に注意して読む力や全体の構成を把握する力を向上させるとともに，「読むこと」の学習で身に付けた力を，論理的な文章を書く力として活用させることができた。

キーワード：小学校　国語　説明文　活用力　振り返り　ワークシート

Ⅰ　主題設定の理由

小学校学習指導要領解説総則編（平成20年８月）では，「教育課程の一般方針」において，「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力，その他の能力をはぐくむ」と示されている。さらに，「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（中央教育審議会答申　平成20年１月）における国語科の改善方針には，「実生活で生きてはたらき，各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること，（中略）に重点を置いて内容の改善を図る。特に，言葉を通して的確に理解し，論理的に思考し表現する能力（中略）を重視する」とある。

小学校学習指導要領（平成20年３月告示）に示された国語科の目標について，小学校学習指導要領解説国語編（平成20年８月）では，「『適切に表現』する能力と『正確に理解』する能力とは，連続的かつ同時的に機能するものである」と述べられている。

これまで，国語科において，思考力，判断力，表現力の育成を図るためには，読むことの学習で得た「基礎・基本」を他の作品を読む力につなげたり，自分の表現に生かしたりできるような言語活動の設定が必要であると考え，読解の過程で学んだことを使って自分の文章を書く活動を行ってきた。その結果，簡単な構成をとらえたりすることはできるようになったが，調べたことを書く活動では，どのように書いてよいかわからず活動が停滞したり，段落が整理されていなかったり，集めた情報を書き写しただけであったりすることが多かった。これらの原因として，読むための技能をどんな場面で適用できるかについての理解が不十分であったことや，書き手の立場に立って読むという意識が希薄で，筆者の述べ方の工夫を考えながら読む活動が不十分であったことが考えられた。そこで，読むための技能を身に付けさせるための工夫と，書く力として活用させるための工夫という２点から，指導の改善を試みた。これによって，「読む力」を「書く力」として活用するとともに，それを通して基礎・基本の定着を図ることができ，論理的に思考し，表現する力の育成に資するのではないかと考え，本主題を設定した。

Ⅱ　研究目標

説明的文章の学習において「読む力」を「書く力」として活用できる子どもを育成するために次のような手だてが有効であることを実践を通して明らかにする。

・読むための技能を明確にして，その有用性を実感させる言語活動を設定し，それらがどのように役に立ったかを振り返らせる。
・論理的な文章を書くための手引となるワークシートに，構成や表現の工夫を書き込ませながら読ませる。

Ⅲ　研究仮説

説明的な文章の学習において，次のような手だてによる指導を行えば，「読む力」を「書く力」として活用できる子どもを育成することができるであろう。

・読むための技能を明確にして，その有用性を実感させる言語活動を設定し，それらがどのように役に立ったかを振り返らせる活動を指導過程に位置付ける。
・論理的な文章を書くための手引となるワークシートに，構成や表現の工夫を書き込ませる活動を指導過程に位置付ける。

Ⅳ　研究の実際とその考察

１　研究における基本的な考え方

説明的な文章を学習するねらいは，①情報を読む（何が書かれてあるか）②論理を読む（どのように述べられているか）③筆者を読む（筆者はどのように考えているか）の３点にあると考える。これらを読む学習において，教材の内容や表現の工夫を正しくとらえるための技能は，伝えたいことを分かりやすく書くための技能につながる。筆者が，伝えたい情報についていかに書いているかという論理の展開をたどって読むことが，文章構成や表現の工夫に目を向けさせることにもなると考えた。

２　研究内容

(1)　「読む力」と「書く力」のつながり

小学校学習指導要領解説国語編（平成20年８月）に示された，第３学年及び第４学年における「Ｂ書くこと」，「Ｃ読むこと」における指導事項を基に，本単元で身に付けさせたい力として具体化したものが図１である。

	イ　説明的な文章の解釈	エ　自分の考えの形成及び交流	カ　目的に応じた読書
単元で付けたい読む力	○中心となる語や文に着目しながら読み，要点をとらえ，内容を正しく理解する力 ○文と文とのつながりや段落相互の関係をとらえ，文章の構成を把握する力 ○論旨を分かりやすく伝えるための筆者の表現の工夫に気付く力	○文章の内容に興味をもち，要点や細かい点に注意しながら読む力 ○読んだ内容を経験と関連付けて，自分の考えをまとめる力	○調べたい事柄に合うように本や文章を選んで読む力

	ア　課題設定や取材	イ　構成	ウ　記述	エ　推敲	オ　交流
単元で付けたい書く力	○興味をもった事柄から，題材を決める力 ○調べたことを必要に応じてメモする力 ○分からない語句や事象について進んで調べる力	○説明的文章の構成を理解し，文章を組み立てる力	○書きたいことの中心を意識し，事例を挙げて書く力 ○接続語や指示語を用い，文末表現等を適切に工夫して書く力	○文章の間違いを直したり，より良い表現に直したりする力	○お互いの文章の良さに気付き，感想を述べ合う力

図１　本単元で身に付けさせたい「読む力」と「書く力」

教材として，本校で使用している国語科の教科書に掲載されている説明的文章の中から，身近な食品についての興味を喚起し，論旨が明快で，文章構成や語句の用い方など論理の展開の工夫がとらえやすい，「すがたをかえる大豆」（光村図書国語３年下「あおぞら」　平成17年度版　筆者　国分牧衛）を使用することとした。

教材を読む学習から，調べたことを説明する文章を書く学習へのつながりをまとめたものが，図２である。

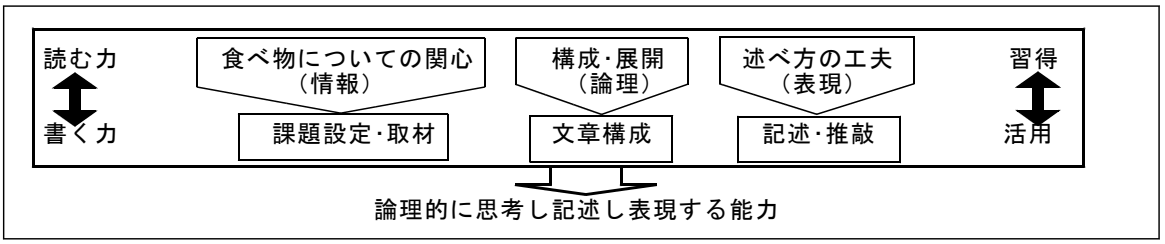

図２「読む学習」から「書く学習」へ

⑵ 読むための技能の有用性を実感させる言語活動

読むための技能を定着させ適切に使用させるためには，子どもがその技能の有用性を実感することや，活用を通して適用場面を知ることが必要である。そこで，単元のどの部分でどのような言語活動を設定していけば，読むための技能の有用性を実感できるのかということを重視して，単元の指導計画を設定した。

また，常に「書くこと」を意識させるために，単元の初めに「説明的な文章を書く」という全体のゴールを示し，そのためにはどのような学習が必要かという見通しをもたせながら，学習計画を立てさせた。

⑶ 振り返りの意義

自分の学習状況や学習方法，理解の状態などを客観的に振り返らせることは，次の学習活動の改善に役立つとともに，学習者としての自律を促す。自己評価力を支えるのは，メタ認知経験であると考える。三宮真智子は，学習における振り返りの重要性について，以下のように述べている。「自己の活動をモニタリングしていくことで自分の考えを客観化し，行動を調整できる」（三宮真智子，2008）。さらに，メタ認知活動の意義については，以下のように述べている。「メタ認知活動を促進することは，極めて効果的な学習支援法と考えられる。それは，単に学習法を教えるといった狭い意味合いのものではなく，学習に対する基本的な姿勢や考え方，感じ方，動機付けなどに働きかけ，学習者が自分の意思と選択によって学習に積極的にかかわることを可能にする」（三宮真智子，2008）。

そこで，本研究では，「読むこと」の学習の１単位時間ごとに学習活動を振り返らせる場を設定した。学習後の感想として，読むための技能がどのような場面でどのように役に立ったかということや，表現の工夫として参考になること，級友の意見から参考になったことの三つの中から選択させて書かせた。さらに，子どもの振り返りを相互交流させることで，読むための技能の有用性をより実感できるようにした。

⑷ ワークシートの作成・利用

「読むこと」の学習では，文章全体や段落の構成，表現の工夫をとらえやすくするために，ワークシートを作成し，中心となる語や要点，記述上の工夫点等を書き込ませた。特に，教材文の構成・表現は，そのまま説明的な文章を書く際のモデルとなるので，全体の構成と表現の工夫とを１枚のシートにまとめさせ，教材の論理の展開の仕方をとらえやすくした。

「書くこと」の学習では，「取材と構成シート」及び「下書きシート」の２種類のワークシートを用いた。「取材・構成シート」は，「読むこと」の学習における「構成・表現の工夫のまとめシート」と同様の形式のものである。「読むこと」の学習で学んだ説明的文章の構成や表現の工夫に照らし，「はじめ・中・終わり」の構成で，それぞれの部分の役割を確かめながら文章を書かせることとした。

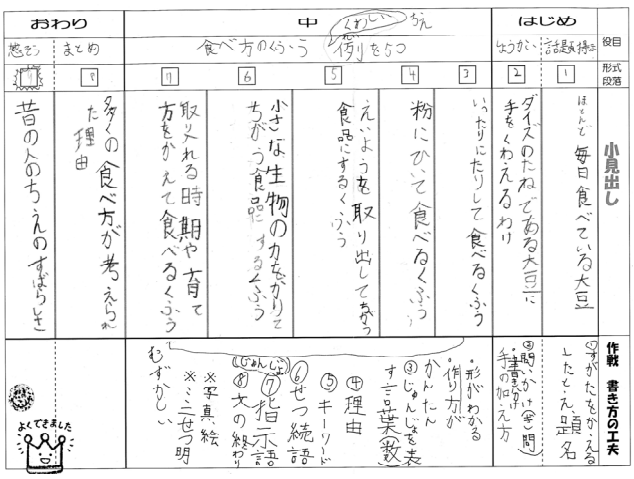

図３　構成・表現の工夫のまとめシート

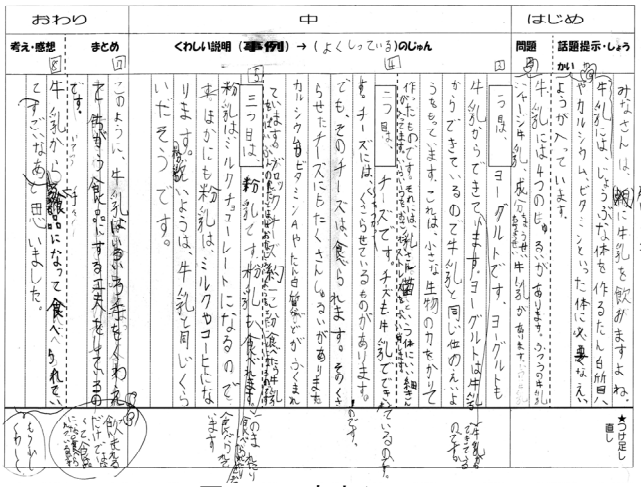

図４　下書きシート

３　検証計画

⑴　「読む力」について

・論理的に読む態度の変容を見るため，読むための技能の使用意識についての事前・事後アンケートの結果の比較と，１単位時間ごとの終わりに書いた「振り返り」の記述内容の分析をする。

・論理的に読む技能の変容を見るため，事前・事後に同じテストを行い，正答者数の変化を分析する。

⑵　「書く力」について

論理的に書く技能の変容を見るため，構成・記述にかかわる評価の観点を設定し，観点に沿って記述できた児童数の変化と，作品の記述内容を分析する。

４　検証授業の実際

⑴　**単元名**「大事なことをたしかめよう　ーひみつ発見！おもしろ食べ物ワールドー　」（18時間）

⑵　**対象**　　３年生児童８名　（男子７名，女子１名）

⑶　**単元の目標**

・大豆に興味をもって読み，昔の人々が知恵を働かせて暮らしてきたことに気付く。

・筆者の論理の展開の工夫を理解し，それらを生かして，説明的な文章を書くことができる。

・主語と述語，指示語，接続語，文末表現に注意して，文章の内容をとらえ，段落相互の関係を考えながら読むことができる。

⑷　**指導計画**

過程	主なねらい	主な学習活動	○検証場面　●主な言語活動例
1次（2時間）	○学習計画を立て，単元全体の見通しをもつことができる。	・単元のめあてを知る。 ・各段落のあらましをとらえ，形式段落と意味段落に分ける。 ・単元全体の学習計画を立てる。	○読むための技能の使用意識調査 ○読むための技能　事前テスト ○書くための技能　事前作文 ●題名読みをする。
2次（7時間）	○学習計画に沿って大豆をおいしく食べる工夫を読み取ることができる。 ○文章全体の構成と表現の工夫をとらえ，まとめることができる。 ○筆者の考えについて話し合い，感想をまとめることができる。	・話題の中心を読み取り，冒頭部分の段落の役割を理解する。 ・「大豆」と「ダイズ」の書き分けについて話し合う。 ・食べ方の工夫と食品の例を読み取り，各段落の要点を書く。 ・小見出しをつける。 ・文章の構成と表現の工夫を調べて表に整理する。 ・筆者の考えについて話し合い，内容・表現についての感想を書く。	○読むための技能　単位時間ごとの振り返り（学習後の感想の記述） ●食べ方の工夫と事例の対応を表にまとめる。 ●段落内の文の並べ替えをする。 ●適切な接続語の穴埋めをする。 ●要点・小見出しを書く。 ●事例の並べ替えをする。 ●組立てシート（構成・表現）に整理する。
3次（9時間）	○目的に合った資料を調べ，食べ物についての説明的な文章を書くことができる。 ○お互いの作品を読み合い，交流することができる。 ○他学年の児童に発信することができる。	・調べたい事柄について書いてある資料を読み，情報を集める。 ・文章の構成表を作り，グループで推敲し合う。 ・教材文の学習で学んだ構成の仕方や表現の工夫を活用して，下書きを書く。 ・推敲後，清書する。 ・お互いの作品を読み合う。 ・他学年の児童に読み聞かせる。	●イメージマップを作成する。 ●必要なことをメモする。 ●構成表を作成する。 ●序論・本論・結論の役割や事例の順序を考えて書く。 ●辞書を引いて言葉を書き換える。 ●他学年の児童に読み聞かせる。 ○読むための技能の使用意識調査 ○読むための技能　事後テスト ○書くための技能　授業を通して書いた作文

５　考察

(1) 読むための技能の振り返りの効果について

ア　読むための技能の使用意識の変化

図５から図８は，説明的な文章を学習する際に，接続語の役割や指示語の指示内容など，読むための技能を使用しているかについての意識調査の結果である。ここでは，図５から図７に示すように，接続語の役割や指示語の指示内容，段落相互の関係を調べたりする技能を使うという項目が伸びた。子どもは，学習が進むにつれて，使えそうな技能を見通して自力解決に向かうようになった。

また，図８に示すように，教材文の表現の工夫を見つけたり考えたりするという項目も伸びた。分かりやすい説明文を書いて発表することを単元のゴールに設定し，振り返りの視点に加えたり，構成と記述の工夫をまとめる活動を設定したりしたことで，子どもの使用意識が高まったのであろう。

図５　接続語の役割

図６　指示語の内容

図７　段落相互の関係

図８　表現の工夫

イ　読むための技能の有用性の実感　　「振り返り」から

文の終わりに気をつけました。「のです」や「ますか」というところに気を付けたら，作せんが見つかりました。「大豆」は食品で，「ダイズ」は植物と書き分けているところをまねしたいです。
今日，役に立ったアイテムは，せつ続語です。「このように」は，３段落から７段落までの５つの工夫をまとめているとわかりました。～それに，さいごに「ちえにおどろかされます。」と自分の考えも説明文に書いてあってすごいなあと思いました。国分さんのような書き方をまねしたいです。
だん落の要点を書くときに，指示語をアイテムにしたら，まとめて書けました。何回も同じ言葉を使っているとくどいので，指示語を使うとすっきりしていいと思いました。

「読むこと」の学習における読むための技能の有用感や書き方の工夫の効果について記述されている。「説明的な文章を書く」というめあてが意識されているので，内容ばかりでなく，文末表現や接続語，段落構成に着目し，自分の文章に取り入れたいという立場から，適用場面についての記述も見られる。

ウ　読むための技能の向上　（読解テストの結果から）

図９から図12は，説明的な文章の内容や構成・表現の工夫が理解できたかについての調査の結果である。読むための技能では，接続語の役割や指示語の内容を答える問題や，文末表現から問題提示の文や筆者の主張の文を指摘する問題の正答者数が増えた。また，文章の構成をとらえる問題の正答者数も増えた。学習の振り返りを通して，読むための技能の有用性や適用場面が理解できたものと思われる。

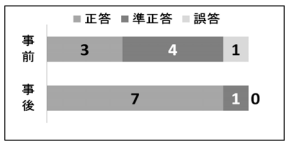

図９　接続語の指摘

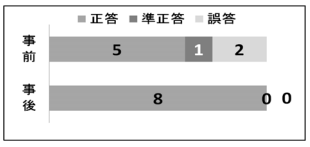

図10 指示語の内容

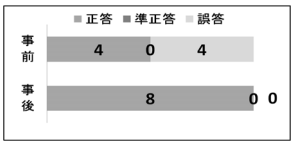

図11　文末表現

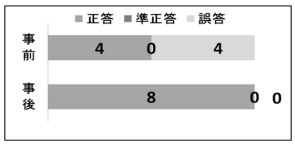

図12　３部構成

(2) ワークシートの活用の効果について

ア　学級全体における書くための技能の向上

図13から図16は，説明的な文章を記述する際，構成を意識したり，表現を工夫したりして書いているかについての調査の結果である。説明的な文章を書くための表現の技能についての調査では，構成に関する項目が大きく伸びた。記述に関する項目では，接続語・文末表現の使用の適切さにかかわる項目が伸びた。全員が，「はじめ・中・終わり」の役割を理解し，接続語や文末表現の効果を生かして書くことができた。特に，「中」の部分に当たる事例の説明については，それぞれの段落の順序性を意識して書いていた。「読むこと」の学習で使用したワークシートを使って教材の構成や表現の工夫を参考にしながら，「取材・構成シート」に書き込んだり，下書きをしたりすることができたものと推察される。

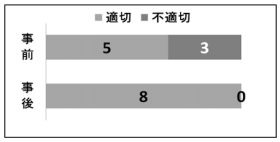

図13 接続語・数を表す語

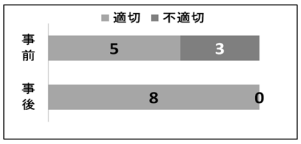

図14 文末表現の工夫

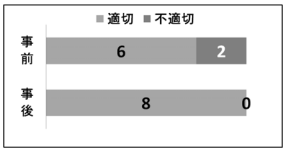

図15 ３部構成

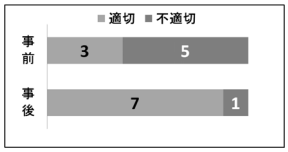

図16　中心の明確化

さらに，読むための技能の使用意識と読むための技能，書くための技能についての３種類の調査結果を見ると，接続語や文末表現に関する項目，文章構成・文章表現の工夫に関する項目において，読むための技能の使用意識の高まりが見られる項目については，読解テストにおける正答者数も伸び，説明的な文章を書くための技能も向上していることが明らかになった。

イ　抽出児童における書くための技能の向上

これまでの説明的な文章の学習において，読むことの学習内容は定着しているが，書く活動には生かせないことの多かった児童を抽出し，事前と事後の作品を比較することにした。図17の事前に書いた文章では，３部構成にはなっているが事例が整理されておらず，資料の記述をそのまま書き写している部分も見られる。これに対して，図18の本単元の学習で書いた文章では，段落ごとにナンバリングされて，事例が整理されている。また，話題提示の工夫や，文末表現の工夫も見られている。

かまぼこという食べ物を知っていますか。かまぼこという食べ物は，板つきかまぼこやちくわなどのことを全部合わせてかまぼこというのです。かまぼこには，どんなしゅるいがあるのでしょう。

かまぼこには，いろいろなしゅるいがあります。その中でも板つきかまぼこなどがあります。たとえば，ちくわだってかまぼこのなかまです。すまきもかまぼこのなかまです。鳴門巻きもすまきの一種です。だから，鳴門巻きもかまぼこです。鹿児島県さつまでは，あげかまぼこがたくさん作られるのでさつまあげとよばれるのです。はんぺんのはんは，半分の意味です。すり身をおわんの形にしてゆでたから，はんぺんとよばれるようになったそうです。

このように，かまぼこのしゅるいには，いろいろあるのです。

図17　事前に書いた文章

みなさんは，みそしるの具の中で，一番すきな具は何ですか。わかめやふのりなどの入ったおみそしるもおいしいですよね。

このワカメやフノリは，海草のなかまです。海草は，海に生えている植物で，カルシウムやナトリウムなどのえいようがたっぷり入っています。では，海草からは，どんな食品ができるのでしょうか。

一つ目は，コンブからできる食品です。海からとったコンブをほしてかんそうさせると，だしこんぶやとろろこんぶができます。

二つ目は，ノリからできる食品です。ゴミを取りのぞいて，水であらったノリをすいて，二時間から三時間かんそうさせると，ぱりぱりののりができます。これは，味付けのりやのりのつくだにになります。

三つ目は，テングサからできる食品です。テングサに水を加えてかためると，ところてんができます。ところてんは，味を付けてそのまま食べます。それから，ところてんを氷らせてかんそうさせたものが寒天です。寒天は，とかして，おかし作りなどに使います。

このように，海草は，いろいろな食品になっているのです。

ぼくは，海草は，ワカメやノリしか知りませんでした。でも，コンブ やテングサからもいろいろな食品が作られていることがわかりました。

図18　本単元の学習で書いた文章

Ⅴ　研究のまとめ

本研究において，読むための技能を明確にし，適切な言語活動を設定して，読むための技能の有用性を振り返らせることで，接続語や指示語，文末などの表現の細部に注意して読もうとする意識も高まり，そのような表現の細部の効果を考えながら読むことで，文章全体の構成や表現の工夫を把握する力も向上した。

さらに，「読むこと」と「書くこと」を関連付け，単元構成やワークシートを工夫することで，「読むこと」の学習で身に付けた力を活用し，「はじめ・中・終わり」の役割を意識し，接続語や文末表現の効果を生かした文章を書くことができた。

Ⅵ　本研究における課題

・ペアや少人数での意見交流を通してこれらの技能を高めるための効果的な言語活動や，学級全体の話合いを活性化できるような発問等の工夫について検討していきたい。
・「読むこと」と「書くこと」の学習の相互作用によって「読む力」・「書く力」をらせん的に高めていくために，６年間の長期的な見通しに基づいた単元の開発に努めたい。

〈引用文献〉
三宮真智子　2008　『メタ認知　学習力を支える高次認知機能』，p. 28，p. 107　北大路書房
文部科学省　2008　『小学校学習指導要領解説　国語編』，p. 9
文部科学省　2008　『小学校学習指導要領解説　総則編』，p. 14

〈参考文献〉
安彦忠彦　2008　『「活用力」を育てる授業の考え方と実践』　図書文化社
寺井正憲・成家亘宏　2008　『小学校国語　活用力を育てる授業　いま身につけさせたい「言葉の力」と指導の実際』　図書文化社
田近洵一・井上尚美編　1993　『国語教育指導用語辞典　第４版』　教育出版